

初めて学ぶ“浄土真宗の聖典”講座シリーズ

—本願寺で初となる「浄土真宗聖典」を用いた公開講座—

はじめに

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は、この四月から来年の一月まで、六十五日間、百十五座にわたって、本願寺の御影堂で行われます。この法要は、五十年毎に行われる聖人の年忌法要で、今年が丁度その節目にあたります。私たち一人ひとりが、親鸞聖人のご遺徳を偲しのび、そのお徳を讃たためるとともに、浄土真宗の教えを深く味わう機縁となるものです。

私たち聖典編集部は、本願寺第二十代即如ご門主の就任を期として実施された宗門発展計画によって、一九八二（昭和五十七）年に始まり、「原典版聖典」シリーズ、「註釈版聖典」シリーズ、「現代語版聖典」シリーズ、そして「季刊せいてん」と各種の聖典を編纂し、その発行部数は、あわせて百万部を超えています。

そこで、本年、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお迎えするにあたり、これま

でに編纂されている各種の聖典について、もつと身近に味わっていただきたいという思いから、聖典の公開講座を開くことになりました。

これは、聖典編集部の研究員と門信徒の方々が一体になって、各種の聖典の特徴や扱い方から始め、聖典を通して、親鸞聖人の教えや、そのご生涯を学んで、浄土真宗の教えに触れていただくということを目的とするものです。

本願寺派として初の試み

聖典の公開講座は、本願寺の境内にある安穩あんいでん殿において、昨年の十一月と十二月に開催され、第一回は、午前の部と午後の部に分けて、それぞれ「浄土真宗のいろは」「親鸞聖人と本願寺の歴史」と題して、各九十分程度の講座が開かれました。

また、第二回は、午前の部は「浄土真宗聖典いろいろ」と題して講座が開かれ、午後の部は「本願寺の両堂と書院」と題

して、三十分程度の講義の後、実際に、本願寺の両堂（阿弥陀堂と御影堂）や書院を、解説を聞きながら拝観するというかたちで行われました。

実は、このような「浄土真宗聖典」を用いた公開講座は、本願寺派としては、初となる試みなのです。

門信徒の篤い期待

近年、身近なものとなっているインターネットの記事ひとつを取ってみても、何が真実で、何が嘘なのか、さまざまな情報が錯綜して、ますます不透明になっています。このような状況のなか、公開講座の告知から、一週間も経たないうちに、予定する参加者数を大幅に超え、キャンセル待ちが出るほどの申し込みがありました。

このことは、多くの方々が、親鸞聖人のお膝元である本願寺で、真実の教えを求められているということのあらわれであり、私たち聖典編集部部門の研究員は、

聖典の編纂とその普及に、より一層、真摯に取り組まなければならないという思いを新たにされる機会となりました。

聖典の公開講座の内容

それでは、現在、計画されている聖典の公開講座の内容について、その一例を紹介してまいります。本願寺の境内にある安穩殿で、昨年の末からスタートした講座は、本年から、春と秋に分けて、それぞれ三回ずつ、計六回にわたって開講される予定です。そして、この講座には、「はじめの一步」をテーマとした共通の講座と、複数回にわたって開講されるシリーズの講座との二つが用意されています。

このなか、共通の講座と申しますのは、春と秋を通して、毎回、午前の部の最初に設けられている講座です。この講座は、「浄土真宗聖典いろいろ」と題して開講されるもので、浄土真宗の基礎から学んでいたけような内容となっています。

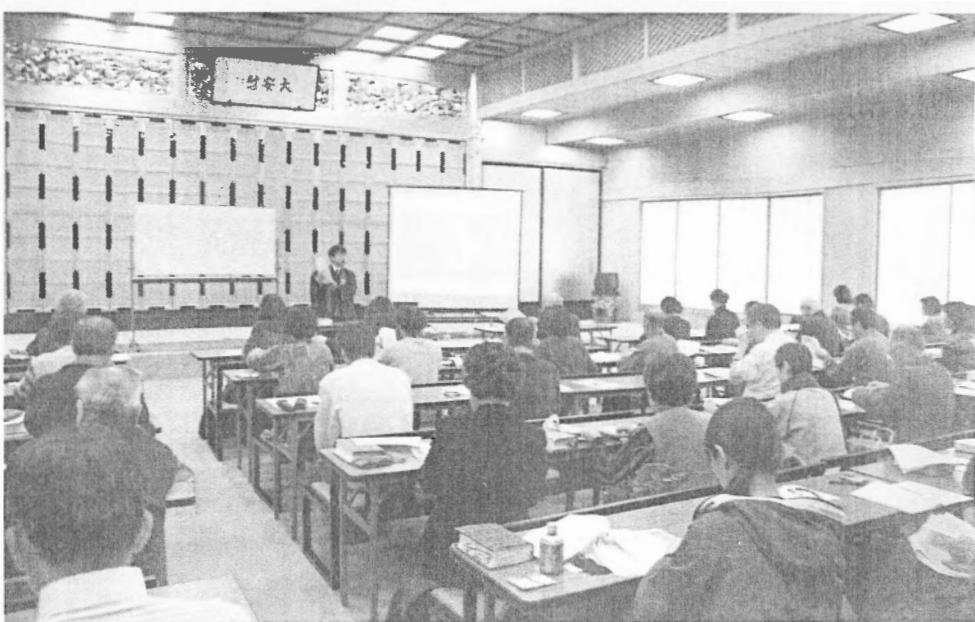
す。

一方、シリーズの講座は、複数回にわたって、連続して開講されるもので、午前の部では、浄土真宗の教えについて、「正信念仏偈を読む」と題して開講され、午後の部は、歴史的な内容について、親鸞聖人のご生涯を聖典の上から窺うことを目的として、「御伝鈔のころ」と題して開講されます。それぞれの講座の題材となつている聖典をもとに、回を重ねることによって次々と読み進め、その内容を一周したところで、また、新たな聖典を題材として、講座を開いて行くというものです。

共通の講座の特徴

——「はじめの一步」としての講座——

私たちは、講座のテーマとして「はじめの一步」と謳っています。それは、はじめ浄土真宗の教えをお聞きになる方のために、いつからでも参加していただけるようにという思いから、春と秋を通



「初めて学ぶ“浄土真宗の聖典”講座」第1回（2010年11月27日、安穩殿）

して、共通の講座を設けることにあります。昨年の末に開講しました二回にわたる聖典の公開講座が、これにあたります。共通の講座は、「浄土真宗聖典いろいろ」と題して開講されますが、その内容

にもさまざまな工夫を施ほどこしています。それは、「浄土真宗聖典とは何か」ということに焦点をあてたもの、「浄土真宗聖典」の特徴や扱い方に関するもの、実際に「註釈版聖典」や「現代語版聖典」を用いて、「浄土真宗」といった大切な言葉の意味を知っていただくもの、付録の年表や地図をご覧いただいて、親鸞聖人をはじめ、七高僧のご遺徳を偲ぶ機会を得ていただくものなどです。

このように、共通の講座は、「はじめて浄土真宗の教えをお聞きになる方のために」「いつからでも浄土真宗に触れていただけるように」という思いから、「はじめの一步」と謳って設けているものです。

シリーズの講座の特徴

——「正信念仏偈を読む」——

そして、共通の講座と併行して設けているものが、シリーズの講座です。その最初に開講を予定しておりますのは、浄

土真宗の教えに関しては、門信徒の方々にとつて、もつとも身近な聖典である「正信念仏偈（正信偈）」を題材にした「正信念仏偈を読む」という講座と、歴史的な内容に関しては、親鸞聖人の恩徳おんくを報謝する報恩講ほうおんこうなどで聞き親しんでおられる「御伝鈔」を題材にした「御伝鈔のこころ」という講座です。このうち、今号では、「正信念仏偈を読む」という講座について、ご紹介いたします。

ご存じの通り、「正信念仏偈」は、親鸞聖人の主著の『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』のなかに記されている偈頌げじゆ（詩句）ですが、このなかには、『仏説無量寿経（『大経』）』を中心として記された阿弥陀仏の教えや、七高僧の教えがぎっしりと記されています。

この「正信念仏偈」を拝読するということは、『仏説無量寿経』に説かれていゝる阿弥陀仏のおこころや、そのおこころを私たちに伝えようとしてくださった七高僧の教え、そして、親鸞聖人が明らかにしてくださった浄土真宗の教えを学ん



昨年の「講座」告知案内

てぶ浄土真宗の聖典の講座
 はじめの一步
 第1回 2010年11月27日(土) 10:30~14:30
 第2回 2010年12月18日(土) 10:30~15:00
 会場 数字伝道研究センター
 〒100-8302 東京都千代田区有明
 電話 03-571-0744 FAX 03-571-0761

で行くということになります。つまり、親鸞聖人の主著である『教行信証』のすべてが、この「正信念仏偈」に収まっているのです。これらの内容につきましては、数回の講座では、到底、拝読し終えることはできませんから、複数年にわたって、シリーズで開講してまいります。まず、「正信念仏偈」の全体を見渡して、どのような内容で構成されているのかということから始め、「仏説無量寿経」について説かれている「正信念仏偈」の依経段から、「法蔵菩薩と阿弥陀仏」

「お釈迦さまの本懐」と題して、それぞれの内容について、講座を進めてまいります。

次に、七高僧について記されている「正信念仏偈」の依経段から、お一方ずつ、その伝記や逸話を交えながら、その教えを学んでまいります。このなか、インドの高僧方については、「龍樹菩薩のころ（難易二道の教え）」「天親菩薩のころ（宣布一心の教え）」と題し、中国の高僧方については、「曇鸞大師のころ（自力他力の教え）」「道綽禪師のころ（聖浄二門の教え）」「善導大師のころ（古今楷定の教え）」と題し、そして、日本の高僧方については、「源信和尚のころ（報化二土の教え）」「源空聖人（法然聖人）のころ（選択本願の教え）」と題し

て、『註釈版聖典』をご覧いただきながら、七高僧のおところに触れていただけるよう、易しく説明をしております。

聖典編纂部門の役割

私たち聖典編纂部門では、約三十年にわたって、全国各地に点在する貴重な歴史的な史料を調査し、実際に拝読して、そして「浄土真宗聖典」シリーズとして刊行してまいりました。こうした経験から得ることのできた聖典に関する最新の情報も、この度の講座を通して、お伝えしたいと考えております。また、併せて、受講なさっている方々のご意見を直に聞かせていただきながら、ともに阿弥陀仏のお心に触れる大切な機縁となるよう精進してまいります。

（聖典編纂部門 佐々木義英）